

# 中小企業ぎふ

2014 2015

12・1

Vol.634

2015年1月25日発行

～ 立ちあがろう中小企業、日本のために ～



クローズアップ企業

2～3

土岐市陶磁器卸  
商業協同組合  
組合員

「株式会社山三三宅」

- 会員組合紹介 4～5
- 会長新春インタビュー 6
- 中央会の活動 7～9
- 組合等の活動 10～11
- 12月の景況レポート 12～13
- 職員レポート 14
- インフォメーション 15
- 年賀広告 16～20



“組合のニーズに応えるパートナー・中央会”

岐阜県中小企業団体中央会

岐阜市藪田南5丁目14番53号 ふれあい福寿会館9階  
TEL 058 - 277-1100(代) FAX 058-273-3930  
URL <http://www.chuokai-gifu.or.jp>

# クローズアップ企業

## 株式会社山三三宅

【土岐市陶磁器卸商業協同組合・組合員】



《企業概要》 岐阜県土岐市泉町久尻832-1  
株式会社山三三宅 代表取締役社長 三宅 信也  
<http://www.yamasanmiyake.co.jp/index.htm>

土岐市内にあった5つ（駄知、泉、下石、肥田、土岐津）の陶磁器卸商業(協)の発展的解散により一本化された土岐市陶磁器卸商業協同組合が、平成3年に誕生しました。

設立当初より包装資材やガソリンの共同購入、損害保険事業、高速料金の代金別納事業などに取り組んできました。また、土岐市が開発した「高強度磁器給食用食器」の販売権を組合が取得し、全国各地の自治体と取引するため、平成10年には「官公需適格組合」の証明を受けて販売を続けています。さらに海外市場を視野に入れた販路拡大のため、国の補助事業であるJAPANブランド育成支援事業にも取り組み、海外展示会に出展するなど、活発な事業を展開しています。

そこで、丼（どんぶり）に特化した商売を展開する「株式会社山三三宅」を訪問し、三宅信也社長にお話をうかがってきました。

### ◎御社のこれまでの沿革について ご紹介ください。

#### ☞ 三宅社長

創業は昭和21年。戦後に父親が商売を始めたのが当社のルーツです。高校卒業後に仕事を手伝ったのがきっかけで私はこの商売を続けています。昭和63年10月に法人化した従業員8名の家族中心の会社です。



三宅信也社長

ギフトが売れていた時代は当社もギフト中心の商売をしてきました。既存のお客様を回って御用聞きをしながら、問屋や小売店に商品を卸していました。しかし、時代と共に価格競争へと突入し、潰し合いとなりました。ギフトは概ね上代が決まっており、仕事を増やすには値段を下げて受注するといった商売となります。将来の事も考えて試行錯誤の上、昭和の終わり頃にギフトからの路線変更を決めました。

私は当時少し取り扱っていた外食産業に活路を求めました。まずはホテルやレストラン向けの展示会に出展し、新規顧客の獲得を目指しました。数年間こうした展示会に出ましたが、多種多様な商品を並べているだけでは何の特徴もないため、広い会場では埋もれてしまうことに気づいて丼（どんぶり）に特化することにしました。そして、顧客を絞り込むためラーメン産業展に出展して丼を扱うお客様と出会い、現在は丼中心の商売を展開しています。

### ◎御社の特徴や方針を 教えてください。

#### ☞ 三宅社長

当社は商社ですが取り扱う商品の9割は型づくりから行い、地場のメーカーに見本を提供して生産してもらうメーカー卸です。「新しい器を創造する」をテーマにお客様に応じたオリジナルの丼作りを行っています。釉薬（ゆうやく）と形状の組み合わせで無数の器が作れ、それにロゴやデザインを加えれば世界に一つだけのオリジナル丼が完成します。

お客様のコンセプトに合わせた器を作るのが当社の特徴ですが、もう一つは「当社が商品を納めるお店は繁盛してもらいたい」という思いから、当社ではコストパフォーマンスに優れたオリジナル丼を提案しています。丼のデザインや形状を工夫することでより豪華に見えてスープの廃棄量抑制によるコスト削減が可能です。私は“どんぶりコンサルタント”と称し、こうした丼作りのアドバイスを行っています。「当社の丼を使えば儲かります！」をキャッチフレーズに営業していますが、お客様からの反応も上々で、そこまで考えてくれる販売店に出会ったことが無いといった言葉を掛けていただいています。



会社内の商品展示場

## ◎組合に期待することは何ですか？

☞ 三宅社長

組合には業界全体のことを考えて欲しいと思っています。特に人材育成の必要性を感じており、焼き物に関する技術力の低下を危惧しています。また、若手には様々な経験を沢山して欲しいです。自分の目で見て感じる必要があり、私も若い頃は良い物を作れば売れると思っていましたが、年齢を重ねるにつれてお客様のニーズに合うものを作らなければ売れないと考えるようになりました。

この業界には従来からの発想の転換も必要だと考えています。他ではやっていないことをやらなければ活路は開けません。我々が当たり前だと思っていることが他の業界にはどう映るのか、他の地場産品業界はどういった経営を行っているかなどが聞ける機会を作りたいです。県内には刃物や和紙、アパレルなど様々な地場産業があります。厳しい時代にどんな工夫をして乗り切ったかなど、異業種だからこそ核心に迫った部分の話が出来るのではないのでしょうか。異業種組織が集まる中央会に牽引役を担って欲しいと思っています。

## ◎経営をしていく上で大切にしていることを教えてください。

☞ 三宅社長

当社では大量に作った商品を売るのではなく、お客様のコンセプトにあった商品を作る受注生産体制を目指しています。よって「お客様が欲しい商品を作る」、「お客様のニーズに応える商品を提供する」という意識を持って仕事をしています。ラーメンが商品であるとすれば、丼は商品を引き立てる大切なアイテムです。その丼の良し悪しが商品の評価にも影響します。よって“プロが扱う道具を作る”ことに徹しています。

もう一つは、価格で勝負しないお客様と商売をするようにしています。我々はお客様に応じたオリジナリティのある商品を提供しているため、他社より1円でも安くという発想はありません。お客様の予算に応じて付加価値の高いモノづくりを心掛けています。

## ◎最後に御社の今後の展望、抱負をお聞かせください。

☞ 三宅社長

これからはサービス業の視点も、持つ必要があると思います。価格競争では中国には勝てません。では何で勝負するのか。私は日本人が得意とするきめ細かなサービスだと考えています。今の日本は物が売れない時代です。当然、「丼を買って下さい」では売れない時代。いかにプラスαの付加価値(サービス)を提供できるかが勝負です。売手の理論でモノづくりをしてきましたが、使い手のニーズに合った商品を作ることが今の商売だと思っています。

今後は海外展開にも力を入れたいと思っています。海外でラーメン店を展開する日系企業にアプローチをしていくことから始めています。日本食は器や盛付けで魅せる料理ですが、ラーメンもその域に入っています。

展示会はお客様のニーズを聞く場所です。今後も展示会を通じて新しいお客様に出会い、当社が提供するオリジナル丼で繁盛店のお手伝いをしていければと思っています。



展示会での出展ブース

### 【組合概要】

土岐市陶磁器卸商業協同組合

理事長 齊木克躬 (株)サイキー山陶苑・代表取締役社長)

〒509-5121 岐阜県土岐市土岐津町高山4番地

URL: <http://minoyaki.tokishi.com/>

組合員数：125社

主な事業：共同購買事業、共同販売事業、共同受注事業  
市場開拓事業



# 組合紹介

## こんな活動をしています!

本会は、多種多様な業種・業態の組合等が会員となっており、これが本会の特徴でもあります。各組合がその特徴を活かし日々活動を続けていますので、皆様の仲間を紹介します。



### 岐阜県砕石工業組合

- 理事長 小西 輝幸
- 組合員数 37人
- 設立年月 昭和51年 8月
- 住所 岐阜市六条南2丁目12番13号  
ワピンビル201
- TEL 058-274-3847
- URL <http://www.chuokai-gifu.or.jp/gsk/>

### ◆組合の歴史・活動



小西輝幸理事長

当組合は、砕石業を営む中小企業者の改善発展を図るために必要な事業を行い、これらの者の公正な活動の機会を確保することを目的に昭

和51年4月22日に創立総会を開催し、同年8月、組合員38名の仲間と共に組合運営がスタートしました。

この年には組合の組織強化を図るため、県下5支部に分けて支部をまとめる事業協同組合の設立指導に努め、過当競争を解決し、適正価格による安定供給を最大の目的として、昭和54年の郡上砕石販売(協)をはじめ、東中濃砕石販売(協)、岐阜西濃砕石販売(協)、飛騨砕石販売(協)、各務原砕石販売(協)と次々に協同組合が誕生しました。

また、昭和59年に組合員が生産する砕石製品について品質の安定と合理化を図るため、品質試験を行う事業を開始し、同事業は現在も組合の主要事業の一つとなっています。

当組合のもう一つの柱は指導・教育事業です。経営者、青年部、従業員などそれぞれの立場に応じた研修会や講習会等を行ってきました。特に昭和60年から平成元年にかけては「構造改善事業」、さらに平成6年から10年には「第2次構造改善事業」に取り組み、組合員が抱える労働問題や経営に関する課題、技術や品質の向上に向けた取り組みなど、各種テーマを設定して研究・検討を重ねてきました。また、平成14年には全国中央会の補助事業「活路開拓調査・実現化事業」を活用して「建設発生土有効活用についての研究」を行ったほか、平成22年には中小企業等協同組合モノづくり人材育成事業に取り組みなど、各種支援機関の補助事業等を活用して組合員やその従業員の人材育成等に努めています。今後も関係機関・団体と連携して、業界発展のための様々な研修会等を開催していきます。

更に、現場の安全確保や災害防止の推進のため自主安全パトロールの実施にも力を入れています。

### ◆組合が目指す方向性とは

当業界は建設関連の業種のため、高度成長期を終えた日本で、また高齢化社会が進むこの先、昔のような仕事量は出ないと思います。しかし、国土強靱化を目指した社会資本整備の計画的な推進のためには、基礎資材となる骨材の安定供給に努めていく必要があります。ただ、資源には限りがあるため、当業界では既存の原石採取場の有効な利用のため地元の理解を得て合理的な開発が可能となるよう取り組むと共に地産地消の推進を行っています。

また、県中央会の部会「県建設関連業団体部会」に所属し、官公需に関する陳情等も行っています。業界が抱える様々な課題等について、行政庁や関係機関に要望することで組合員の仕事環境改善に繋がります。こうした活動も組合の重要な役割だと思っています。

小西理事長は「砕石業界は今まで以上に品質確保や環境保全、そして安全面への配慮に注力していく必要がある。地域住民の方々の理解を得ながら、作業現場の安心・安全に努めることが企業の使命であり、従業員やその家族の願いでもある。組合では今後も講習会等を通じて組合員の意識の高揚に努めていく。また、業界の次の時代を担う人材の育成にも取り組んでいきたい。そのためには青年経営者や後継者等で組織する青年部の強化は急務である。青年部では各種研修会や先進地視察などを行ってきたが、こうした機会を通じてお互いの意見や議論を交わしながら人間関係を構築して欲しい。その積み重ねが部員同士の結束力に繋がるし、砕石業界の将来に向けてベクトルを合わせることが出来る。組合運営を任せられるリーダーの出現を期待している。」と今後の抱負を話しました。



次代を担う  
青年部員の研修会



安全意識向上のための安全体感研修会

## 岐阜県自動車車体整備協同組合

- 理事長 川島 徹
- 組合員数 118人
- 設立年月 昭和31年3月
- 住 所 岐阜市日置江2648番地4
- T E L 058-270-0820
- U R L <http://www.gjs.jp/>

### ◆組合の歴史・活動



平野副理事長(左)と川島理事長(右)

当組合は、自動車等の車体を整備（钣金、塗装等）する事業者の組織です。組合の沿革は、前身の「岐阜県自動車車体整備協会」が昭和44年に創立され、昭和50年に「岐阜県自動車ボデー協同組合」と合併して、「岐阜県自動車車体整備協同組合」がスタートしました。組合の設立年月は昭和31年3月となっていますが、これは合併した県自動車ボデー（協）が設立された年月で、組合としての歴史は今年で40年となります。

組合では地域委員長と事業委員会を置いて組合運営を行っています。主な事業は自動車関連商品の共同購買と申請等の代行業務です。近年は低迷していた共同購買事業にも力を入れ、取扱額が増えてきています。今後は組合員からニーズを聞き、購買品目を追加することも必要だと考えています。また、中央会の「組合等活動支援事業」を活用して人材育成も行っています。自動車業界は技術革新のスピードが速く、数年前にHV車が発売されたと思っていたら、EV車やFCV車などが次々と登場しました。こうした車両は動力源に電池を積んでおり、整備の際には新しい技術が必要となるため、研修会等を行って組合員の研鑽に努めています。

当業界では钣金と塗装を一緒に行う工場が多いですが、昔は「钣金は钣金」「塗装は塗装」に分かれていました。また、今でこそ個人客からも仕事が入りますが、数年前まではお客様のほとんどがディーラーでした。自動車のユーザーは修理が必要となった場合、車を購入した販売店に持ち込むため、そこから钣金や塗装の仕事を

請け負います。整備代金は損害保険で賄われるケースが多く、組合員は保険会社に修理費用を見積るのも仕事でしたが、修理に係る基準がなく整備者の経験と勘で算出していたため、業者によって金額に大きな差が出ることもありました。こうした状態はお客様の不信感にも繋がるため、業界では関連業者などと協力して基準を作り、組合員向けの研修会などを通じて、金額の均衡化を図りました。今では専用ソフトも開発され、スムーズな見積書の作成やお客様に対する作業内容の説明などで作業効率が上がり大変助かっています。

### ◆組合が目指す方向性とは

昨年度、悲願だった組合青年部を設立しました。青年部は次代のリーダーを育成する場所であり、新しい発想から生まれる企画力が魅力です。現在は研修会や交流会等を通じて横の繋がりを構築している段階ですが、今後の青年部員の活躍を望んでいます。

我々はなかなか日が当たらない業界ですが、「自動車車体整備事業者憲章」を掲げて、7つの信念と意識を持って事業運営を行い、責務を遂行しています。組合員は国等の認定を得た資格取得工場も多く、国家資格である「自動車車体整備士」を抱える所も少なくありません。組合では今後もこうした工場や国家資格のPRを行い、組合員の経済的地位の向上を図りたいと思っています。

川島理事長は「青年部には新しい風を期待している。現役員の高齢化もあり、新しい発想やチャレンジがなかなか出来ない。青年部の部会長は理事も務めているので、若者の意見も取り入れながら組合運営のバトンタッチを考えている。少子高齢化に伴う車両の減少、新技術による衝突しない車の開発など、業界を取り巻く環境はますます厳しくなるが、変化の激しい時代に対応できる企業体質を作り、お客様に必要とされる車体整備工場として努力を重ねていく必要がある。ユーザーの大切な愛車の外科医として、常に精練された钣金塗装技術で作業に責任を持ち、安心して任せられる車体整備工場でなければ生き残れない。」と今後の組合が目指す方向性について話しました。



広島市で発生した土砂災害に支援物資を送る青年部

# 会長新春インタビュー

平成27年、あけましておめでとうございます。年頭にあたり会員の皆様方に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年日本経済は、アベノミクスや日銀の積極的な金融緩和策等により緩やかに景気回復は続いているものの、消費増税前の駆け込み需要による反動減や海外の政情不安などもあって、実質GDP成長率は2四半期連続でマイナス成長になるなど、まだまだ脆弱な部分も見受けられます。

また、中小企業・小規模事業者においては、円安による原材料・燃料の高騰、人手不足に伴うコスト増に苦しむ声も多く、大企業中心に恩恵を受けたアベノミクスの効果はまだ地方にまで届いていないと感じる一年となりました。

こうした中で、本会では中小企業及び中小企業組合の活力ある発展のため、経営革新、技術開発、経営資源(技術力、マーケティング力、ブランド力、人材等)の確保の促進、海外を含めた新たな販路開拓及び販売方法など様々な課題に対応する事業を行ってまいりました。

今年も中央会は、中小企業連携組織の専門機関として、会員の皆様から生の声を聞き、オーダーメイドによる支援や事業に重点を置いて、会員の皆様の活動を応援しながら期待に応えていく所存です。今後ともご支援方よろしくお願い申し上げます。

## 『組合のニーズに応えるパートナー・中央会』

～立ちあがろう中小企業、日本のために～

### ◆昨年を振り返って

中央会は、県内約600の組合等で組織しており、その傘下には約3万8千社が繋がっている。

中小企業を取り巻く環境は、円安による原材料・原油の値上がり、人手不足などが懸念材料となり、先行きが見通せない状況が続いた。こうした中で、会員組合への巡回・相談指導によりニーズの把握に努め、指導実績は延べ1,581組合、事項別指導実績は延べ2,871項目となった。

昨年は『組合』組織のメリットを今一度再確認し、中小企業の向上を図るための事業に注力した。11月に開催した『組合』ブランドを推進する「組合事業活用フォーラム」には大変多くの参加があり、連携の重要性を再認識する機会となった。また、組合及び中小企業の活力増進を図る活動も積極的に行ってきた。個々の組合及び組合員企業が抱える経営課題を解決するため「ブラッシュアップ支援事業」に取り組み、「経営課題に応じた専門家の派遣」を実施するなど、専門家と連携して様々な課題に対応してきた。さらに海外展開の支援や事務局役員向けのスキルアップ研修会などを開催したほか、国で予算措置された地域中小企業人材確保・定着支援事業や消費税転嫁対策窓口相談等事業、ものづくり補助金の地域事務局の業務なども行ってきた。

### ◆今年の見通し

私は「寒風吹きすさぶ1年、辛抱の年」になるのではないかと考えている。日本の借金は1千兆円を超え、政府も限界にきているのではないか。アベノミクス政策で経済の立て直しを図り財政の健全化を目指しているが、中小企業が収益を上げ、税収が上がる仕組みが出来なければ本当の意味での景気回復にはならないと思う。

それに東南アジア諸国の中小企業が力をつけてきており、日本の中小企業と海外の中小企業とが競い合う時代に突入したと思っている。高山など観光面でのインバウンドは大歓迎だが、ものづくり中小企業は海外の優秀な中小企業の存在に危機感を持たなければいけない。また、円安が続くと国内に生産拠点を戻す動きも出始めて、海外も含めて中小企業間の競争が一層激しくなることが予測される。こうしたライバルに打ち勝つためには、やはり組織の力が重要であると考えている。

そこで、本当の意味で“組み合わせ”協同組合がスタートする1年になるのではないかと。組合及び中小企業同士による異業種連携やコラボレーションがどんどん出てくると思っている。マーケットが縮小する中で、商売そのものが存続できなくなってきた。中小企業がきちんと組み合わせなければメリットをもたらす異業種連携にはならないし、安易な連携は後々足かせになることも考えられる。中央会は組合を取りまとめる中枢機関であり、WIN-WINの関係が構築できる組合間連携こそが中央会の真骨頂を発揮する場面である。こうした意味からも中央会に対する期待は益々大きくなるはずであり、その期待に応えられるようしっかりとサポートしていきたい。

### ◆中央会の活動と方針

中小企業の現状を把握しているのは組合トップの理事長である。その組織のリーダーが集まる中央会はネットワークとそれらの情報を最大限に活用して、事業の強化・充実に努めている。

今年重点活動は、①『組合』ブランドの強化・情報発信 ②『組合』ブランド向上のための組合員支援 ③連携組織の組成支援 ④業界組織リーダーの育成及び女性部、女性経営者の活躍支援 ⑤中央会事業活動の情報発信の5本柱を掲げている。この柱を中心に組合のニーズにあった事業を、組合の実情に応じて効率的、効果的な組み立てを行い実施していく。

99.9%が中小企業である岐阜県においては「中小企業は県の礎」であり、中小企業の活性化こそが県内経済の活力の源泉となる。そのためにも組合及び中小企業が抱える様々な課題への積極的な取り組みが重要であり、その取り組みのダイナミックな推進力として、新たな連携を含めた中小企業の組織化が有効であると考えている。

今年、中央会は創立60周年を迎える節目の年となる。昨年に引き続き、「組合のニーズに応えるパートナー・中央会 ～立ちあがろう中小企業、日本のために～」をスローガンに掲げ、組合並びに中小企業の更なる強化を図るため各種事業を展開していく。全ての基礎は組合のニーズである。昨年に引き続き組合を巡回し、組合及び中小企業者の生の声を聞き、様々な情報を収集して提案する形で支援していくことを年頭にお約束したい。



インタビューに応じる社長

## 理事会並びに役員交流会を開催

中央会は、理事会、講演会並びに役員交流会を12月3日に岐阜都ホテルで開催した。

理事会には本会役員48名が出席して来年度の事業計画の概案等について審議したほか、(株)岐阜フットボールクラブの恩田聖敬社長から「FC岐阜の取り組みについて」情報提供を行った。

また、中部経済産業局の井内摂男局長より「中部地域の産業の展望と課題」をテーマに講演会を行い、理事会終了後には、古田肇岐阜県知事を迎えて役員交流会を開催した。

### 【理事会】

開会にあたり社会長は「11月25日に東京で開催された『組合法施行65周年・団体法施行55周年記念式典』において、経済産業大臣賞を受賞した関金属工業団地協同組合をはじめ、本県から多数の組合や組合役職員が表彰された。(県内受賞者は9頁に掲載)また、秋の褒章では、本会の小西副会長が藍綬褒章を受章された。頑張っただけの人や組合がこうした形で表彰されたことは大変喜ばしい。ものづくり補助金については、地域事務局を置き、多数のコーディネーターが従事したほか、本会職員も尽力した。平成24年度の補正予算は322社、平成25年度の補正予算では314社が採択され、およそ50億の補助金を本県にもたらした。同補助金の継続を各方面にお願いしているので、平成26年度予算に注目して欲しい」とあいさつした。



社会長が議長を務め議案審議

続いて議案審議に入り、平成27年度事業計画(案)及び収支予算(案)の概案の承認、参与の委嘱について審議し、全議案が原案どおり可決決定した。また、新規加入組合等のほか、本年度の主な事業の進捗状況、本会の会費賦課基準の検討結果などについても報告を行った。

なお、平成27年度第1回理事会は、4月22日(水)にふれあい福寿会館「大会議室」、第60回通常総会は、6月10日(水)に15時より岐阜都ホテル「ボールルーム」での開催を予定しています。

新規加入組合等は次のとおり(平成26年4月21日～平成26年12月2日まで)。※( )内は所在地、組合員数。

【1号会員】▽神岡春慶漆器事業協同組合(飛騨市・3名)▽東海モード協同組合(岐阜市・7名)▽TOM協同組合(養老郡養老町・4名)▽東建協同組合(土岐市・4名)

【2号会員】▽株式会社亀井製作所(加茂郡坂祝町)▽合同会社西濃電気引込工事センター(大垣市)

### 【講演会】

中部経済産業局の井内局長は「中部地域の経済活動は、緩やかに改善している。雇用(有効求人倍率)は、1.38倍となっており、全国の1.09倍を上回る数値となっている。一方で中小企業の雇用環境は厳しく、この1、2年で従業員の不足感が



中部地域の現状を説明する井内局長

非常に強くなっている。建設業を筆頭に、サービス業、小売業、製造業でその傾向が見られる。東海地域は自動車産業を中心とした世界屈指のものづくり産業の集積地である。航空機産業やヘルスケア産業、環境産業といった分野も集積している。今後、自動車関連産業においては、新素材による軽量化や安全運転技術など新しい技術の開発が必要だと思う。海外動向については、ASEAN諸国の所得が拡大しており、マレーシアでは富裕層が2千万人を超えるとの見方もあるなど、今後は消費市場として期待される。中小企業・小規模事業者が相談先に困らないよう、ワンストップの相談窓口『よろず支援拠点』やポータルサイト『ミラサポ』を設置したので活用して欲しい」と、中部地域の産業の現状と課題、将来への展望について解説した。

### 【役員交流会】

古田肇岐阜県知事をはじめ、多くの来賓が出席して役員交流会を開催し、古田知事は開会にあたり「今春に岐阜県版の成長・雇用戦略を策定したが、今年度も県経済界を中心とした方々と意見交換を開催した。出席者から『人』や『人材育成』の重要性について意見をいただいているが、人口減少により人がいないという問題がある。岐阜県の魅力・誇りの創出、あるいは魅力ある職場や仕事を創り出していく必要がある。製造業の工場立地件数が上半期全国2位となり、下期もこの勢いが続いている。背景に交通インフラの整備があり、東海環状自動車道の西回りやリニア中央新幹線へのアクセス道路の整備など今後も引き続き努力していく。また、海外からの観光客も伸びている。世界無形文化遺産に本美濃紙が登録されるなど、県内には素晴らしい観光資源が多くあるので、お互いに連携して魅力をPRしていきたい」とあいさつした。



古田知事が来賓あいさつ

## 組合事業活用強化フォーラムで百瀬名誉教授が講演

中央会は、経営資源を補完し、戦略的に事業活動を進めることができるのは、中小企業の連携組織である『組合』であると捉え“結束の力で前へ！中小企業の繋がり活路を切り拓く!!”と題して11月26日に岐阜都ホテルで「組合事業活用強化フォーラム」を開催し、組合役職員や企業経営者ら約160人が参集した。

フォーラムでは、中小企業研究の第一人者として知られる明治大学の百瀬恵夫名誉教授が「今こそ『連携』！『企業間連携』の戦略的活用について」をテーマに基調講演を行った。百瀬氏は自ら関わった事例を紹介しながら、「日本経済を牽引するのは中小企業である。中小企業で組織する組合こそが日本再生の原動力であり、変革期である今こそ組合中心に連携することが重要である」と連携の重要性を訴えた。

その上で、変革期に求められるリーダー像について「危機のリーダーに必要な6つの資質は、①誠実であり、信頼できること②社員を鼓舞する、勇気づけられること③現場主義者④現実主義者⑤細部まで踏み込めること⑥未来に打って出る勇気があることである」と持論を述べた。

最後に、これからの組合は組合員数ではなく組合事業の内容や質が重要であると指摘し、「中小企業が強くなるには、結束力を強めて利益を上げること。中小企業の明るい未来を求めて頑張ってもらいたい」と呼び掛け、講演を締めくくった。

続いて、「百瀬先生との個別相談会」及び「中央会指導員相談会」を開催した。個別相談会では、事前に申込みのあった組合が組合運営上の課題や組合事業などについて相談した。百瀬氏は「組合の存在に否定的な組合員に組合のメリットを唱えるのは難しい。理事長の強いリーダーシップに期待したい。また、青年部など若い人の意見も組合運営に反映させるべきであり、青年部が活発に議論できる場を提供するのも組合事務局の役割である。新規事業は掘り起こせばいくらでもあるはず。そのために組合が外部の力を上手く利用して連携するなど積極的な取り組みが必要である」とアドバイスした。

また、中央会指導員相談会には「賦課金に関する相談」が寄せられ、本会指導員が解りやすく説明した。

百瀬氏の講演ポイントは以下のとおり。今後の組合運営のヒントが沢山ありますので、ぜひ参考にしてください。



百瀬氏による基調講演



百瀬氏に相談する組合役員

### ◆◆百瀬名誉教授・講演ポイント◆◆

- 中小企業は、①長期戦略を掲げること ②身の丈に合った経営を行うこと ③売上ではなく利益率や付加価値で競争すること。
- 戦略は経営者の責任で決める必要があり、それを達成するための戦術は部下が考える。
- 変革期にある今、①少子高齢化への対応 ②過去の成功体験や既成概念を捨てること ③スピード重視の戦略的経営 ④危機感の共有が重要である。
- 組合に入るメリットが無ければ自分達でメリットを作るという信念を持つ。組合は自分達でメリットが作れる組織。先導役とそのサポート役がいる組織が理想である。
- 「教育こそ組合の事業」である。事業の受け継ぎではなく精神の受け継ぎが後継者育成に繋がる。
- 結束力強化の原則は、①嘘をつかない ②人を騙さない ③人の足を引っ張らない ④ルールを明確化する（公平・平等・透明性）
- 経営力の源泉は、①人に喜ばれる仕事 ②人の役に立つ仕事 ③自分の良心に満足する仕事である。

## 組合事務局スキルアップ講座が終了

本会が6回の講義メニューにより行ってきた「組合事務局スキルアップ講座」が終了した。同講座は、組合事務局のスキルアップを目的として実施したもので、10月より月2回のペースで行ってきた。

11月28日には(株)ディセンター代表取締役の折原浩氏から「組合イノベーション～成功し続ける仕組みづくり～」をテーマに研修会を行い、折原社長は「組合の資産はノウハウ・ネットワーク・情報。主役は組合員であるが、事務局が舵取り役となる必要がある。課題は細かく分解することで見える化でき解決の糸口が見つかる」などとアドバイスした。また、12月5日は「組合ホームページ更新の基本操作」、同12日には「組合のためのネット活用術」について各講師から説明を行った。全講座を通して延べ146名の組合役職員らが参加し、組合事務局に必要なスキルを学んだ。



折原社長が組合運営のヒントを伝授

## 「官公需フォーラム」を開催

中央会と岐阜県建設関連業団体部会（杉浦匡介部会長）は、中小企業の官公需確保を支援するため、11月27日に「官公需フォーラム」をホテルグランヴェール岐山で開催し、部会員37名が参加した。

県担当者との懇談会では、杉浦部会長と県土整備部の河合成土木技監からのあいさつに続いて、県担当者より各組合から事前に出された要望に対する回答が述べられた。

また、県議会幹部議員との懇談会では、小川恒雄副議長をはじめ、松岡正人（総務）、山本勝敏（企画経済）、水野正敏（厚生環境）、小原尚（農林）、篠田徹（教育警察）の各常任委員長、藤壇守自由民主党岐阜県連政調会長、部会顧問の猫田孝県議に出席を賜り、各部会員から業界の要望を行った。

出席議員の方々からそれぞれ所見が述べられ、最後に猫田部会顧問は「発注工事の平準化の問題について議論を重ねており、来年度の早い段階に何らかの報告が出来ると思う。県議会としても県行政に働きかけ、業界からの要望が少しでも前進するようにお互いに努力していきたいと考えている」と述べ、懇談会を締めくくった。



県議会幹部議員に部会員が要望

## 組合法施行65周年・団体法施行55周年記念式典を開催

全国中央会と都道府県中央会は、11月25日に東京のANAインターコンチネンタルホテル東京で「中小企業等協同組合法施行65周年及び中小企業団体の組織に関する法律施行55周年記念式典」を開催した。

式典では、全国中央会の鶴田欣也會長のあいさつに続いて来賓から祝辞が述べられた。続いて、優良組合・組合関係功労者並びに組合専従優良職員に対する表彰式が行われ、宮沢経済産業大臣をはじめ各代表者から総代に対し表彰状が授与された。県内の受賞者は次のとおり。（順不同・敬称略）

### ○中協法施行65周年の部

経済産業大臣賞【優良組合】関金属工業(協)、【組合功労者】辻守重（丸重製紙(企)）／中小企業庁長官賞【優良組合】物流ネットワーク中部(協)、大垣市鉄工(協)、多治見美濃焼卸センター(協)、西濃電気工事(協)／全国中央会会長賞【組合専従優良職員】佐古ひとみ（高山建設業(協)）、金子真美（岐阜県可児工業団地(協)）、長谷川真美（(協)土岐美濃焼卸センター）、藤田順子（(協)岐阜県刃物会館）、中野直人（川崎岐阜(協)）

### ○団体法施行55周年の部

国土交通大臣賞【優良組合】岐阜県板金（工組）／中小企業庁長官賞【優良組合】岐阜県生コンクリート（工組）／全国中央会会長賞【組合専従優良職員】岩瀬恵子（岐阜県電気工事業(工組)）



全国から611名が出席した式典

## じゅうろくプラザで「就職マッチングフェア」を開催

中央会は、今年度最終回となる「就職マッチングフェア」を12月4日にじゅうろくプラザで開催した。

年末が押し迫った師走に開催した今回。当初は出展企業数の減少を心配したが、募集をしてみると中小企業の採用意欲は衰えを見せず、今回もキャンセル待ちをお願いする企業も出る中で46社が参加した。フェア当日は肌寒い一日となったが、希望の就職先を見つけようと熱気溢れる学生らが来場し、各ブースでは担当者の説明を熱心に聞く様子が見られた。

なお、今年度は就職マッチングフェアを4回（2回目は2日間）開催し、県内の中小企業が延べ378社出展して、総勢558人の学生等が来場した。出展した企業からは同フェアでコンタクトのあった学生を採用したとの報告も多数寄せられている。今後も本会では県内中小企業の雇用環境改善のため、様々な事業等を行っていく予定をしている。



企業担当者の説明を聞く学生

# 組合等の活動

## アパレル関係3組合による意見交換会を開催

- 岐阜婦人子供服工業組合(佐藤守弘理事長)
- 岐阜県既製服縫製工業組合(平嶋千里理事長)
- 岐阜県ソーイング協同組合(奥田敏光理事長)

中央会では、「組合間連携構築促進事業」に取り組んでおり、アパレル関係の3組合が『県内のアパレル産業活性化に向けた連携の可能性について』をテーマに意見交換を行った。

同事業は、アパレル業界が厳しい状況にある中で、各社は経営努力を重ねているが個々の力では限界があるため、面の力で頑張り、個々企業、組合や業界の底上げ・再生・振興を図るためにはどうすべきかを検討することが目的。岐阜婦人子供服(工組)、岐阜県既製服縫製(工組)、岐阜県ソーイング(協)の3組合が参加して、12月16日にじゅうろくプラザで第1回目の会合を行った。

出席者からは、「ベテランが持つ高い技術を若い世代へ継承していく方策を検討すべき」といった意見や「今後、アパレル業界が生き残るためには、ジャパंकオリティ(純国産)にこだわった商品づくりが必要ではないか」といった提案がなされた。

なお、第2回目はこれらの課題解決に向けて、更に踏み込んだ意見交換を行う予定である。



活発な議論が交わされた意見交換会

## 明知鉄道まつりで「寒天コロッケ」を販売

- 岐阜県寒天水産工業組合(中嶋一昇理事長)

岐阜県寒天水産工業組合は、岐阜女子大学健康栄養学科と連携して「寒天コロッケ」を商品化し、11月15・16日に明智駅と山岡駅で開催された明知線開通80周年記念イベント「明知鉄道まつり」で販売した。

同組合では、平成22年から同大学の学生らの協力を得て山岡細寒天を使った商品開発に取り組んでおり、これまでに「梅ゼリー」や「寒天ムース」、「寒天つくね」を商品化した。これらは、組合が毎年開催している寒天品評会で発表され、現在、恵那駅や学校給食などで取り扱われている。

寒天コロッケは、「ファーストフードのように手軽に食べられる商品開発」をコンセプトに考案され、歯ごたえともっちりとした食感が特徴である。中嶋理事長は、「寒天の普及や寒天を使った特産品づくりを目的として取り組んでいる。食物繊維が豊富でヘルシーな寒天は食材としても魅力的。現在『寒天ドレッシング』なども開発中で、今後も商品提案をしていきたい」と意気込みを語った。



商品開発した「寒天コロッケ」

## 「美濃焼の可能性」について考える

- 多治見陶磁器卸商業協同組合(鈴木正夫理事長)

多治見陶磁器卸商業協同組合は、11月12日に多治見市産業文化センターで「美濃焼の可能性」をテーマにシンポジウムを開催し、窯業関係者や行政の担当者ら約200人が集まった。

進行役は中日新聞社の畑間香織記者が行い、(株)幸兵衛窯の加藤幸兵衛社長、(株)井澤コーポレーションの井澤秀哉社長、(株)ヤマセの各務寛治社長がパネラーを務め、美濃焼の未来について意見を交わした。

同シンポジウムは、組合の講演会事業の一環で開催したもので、鈴木正夫理事長は「美濃焼産地として原料問題をはじめ、今後の『美濃焼』について窯業関係の業界全体で考えていく必要がある。原料・メーカー・商社それぞれの立場や役割を発展させていくとともに、産業観光、縦系列の連携のあり方など、美濃焼の今後を考える上で重要である」とあいざつした。

シンポジウムでは、原材料の確保、人材育成、販売網の確保や産業観光への取り組みなど様々なテーマが議論され、美濃焼の発展のため、窯業界が一致団結する必要があると改めて感じる機会となった。



シンポジウム会場

## 岐阜市中央卸売市場で「ぎふ市場まつり」を開催

岐阜市中央卸売市場内の協同組合などで組織する「岐阜市中央卸売市場まつり実行委員会」が主催して「第3回ぎふ市場まつり」が11月30日に同市場で開催された。

岐阜市における生鮮食料品の流通拠点である中央卸売市場をPRし、食文化の向上、食育の推進及び生鮮食料品の消費拡大を図るイベントとして実施しており、今年も大勢の来場者で市場は賑わった。

まつりではマグロの解体ショーをはじめ、フレッシュな青果物・水産物の販売などが行われたほか、和太鼓の演奏などのイベントも実施された。また、岐阜食品青果(協)や岐阜水産物商業(協)ではとん汁や鮎雑炊の無料配布を行い、配布テント前には長い行列が出来ていた。



来場者にマグロの種類を説明

## 組合間連携で新たな事業の可能性を探る

- 岐阜県広告美術業協同組合(小林良之理事長)
- 岐阜県中古自動車販売商工組合(岩瀬晃彦理事長)

県広告美術業(協)組合員の(株)デザイン・ラボ(荻谷社長)と県中古自動車販売(商工)組合員のトータルガレージ サナダ(真田代表)は、中央会の「組合間連携構築支援事業」を活用して、近年、自動車のドレスアップ業界でも注目され始めた「カーラッピング」により自動車販売業者と看板施工業者の連携による事業化の可能性を探った。

新車・中古自動車販売を行うトータルガレージ サナダでは、自動車の車体に様々な色やキャラクター等のフィルムを貼りオリジナル化する「カーラッピング」に関する問い合わせがあることから、自社で販売する中古車や新車にラッピングを施し、自動車に付加価値を加えることで販売促進が図れないかと考え、本会が(株)デザイン・ラボを紹介。同社は看板製作を行う一方で、高品質なカーラッピングに関する知識や技術、豊富なマーケット情報を有していることから、両者の連携によるカーラッピング事業の可能性を検討した。

この取り組みにより、トータルガレージ サナダは新車や中古車の販売促進、企業PRにつながり、(株)デザイン・ラボにとってもカーラッピング施工依頼の増加が想定され、相互にメリットが生まれることを見込んでいる。



荻谷社長(左)と真田代表(右)

## 電気工事技能競技全国大会で本県代表が銀賞を受賞

- 岐阜県電気工事業工業組合(杉浦匡介理事長)

全日本電気工事業工業組合連合会が主催する「第1回電気工事技能競技全国大会」が11月29日に東京の両国国技館で開催され、本県代表として出場した(有)細江電気商会の細江敏史社長が見事に銀賞を受賞した。

同大会は、電気工事技術者の資質並びに技術水準の向上を通じて、お客様の満足と安全・安心に電気を届けるための電気保安の確保を担う電気工事業界の発展に寄与するために初めて開催された。全国各地のブロックから選抜された30名が実技と学科で競い、電気工事の必須技術・技能に、次代のトレンドを加味した課題が与えられた。細江社長は、昨年度開催した県電気工事技能競技大会で優勝した中濃チームのメンバーで、組合青年部でも活躍されており、「6月に出場が決まって以降、同僚などの支えもあり、勉強に励んできた。"挑戦あるのみ"の心意気を忘れず、自分の実力を試してみようと頑張れた」と受賞の感想を述べた。



実技に挑む細江社長

## 東濃各地で美濃焼新春見本市を開催

- 岐阜県陶磁器工業協同組合連合会(河口一理事長)

岐阜県陶磁器工業協同組合連合会に所属する14組合は、新春恒例の「2015年美濃焼新春見本市」を開催した。

12月3、4日に駄知陶磁器工業(協)が土岐市立駄知体育館で開催した「美濃焼だちもの新作見本市」を皮切りに、年が明けた1月7、8日には、瑞浪市総合文化センターで瑞浪・恵那の両陶磁器工業(協)が新作を披露した。続く1月8、9日には、多治見市のセラミックパークMINOで笠原・滝呂・市之倉・高田の各陶磁器工業(協)が、また、同日には土岐市のセラトピア土岐で土岐津・泉・肥田・土岐津西部・下石・妻木の各陶磁器工業(協)が開催し、各ブースではバイヤーと商談が行われていた。さらに1月10、11日には、美濃焼伝統工芸品(協)が土岐市の美濃焼伝統産業会館で開催し、会場は多数の業界関係者で賑わっていた。

なお、この見本市は、各事業所が開発した新商品やオリジナル商品を地元商社等にPRし、売り込むことを目的として開催しており、その年の業界の景況を占う催しとしても注目されている。



新作を披露する新春見本市

## ◆組合トピックス◆ 可児工業団地へ進出するものづくり企業を募集しています!

岐阜県可児工業団地協同組合(傍島茂夫理事長)は、岐阜県可児市の南部丘陵地に3期にわたって開発造成された、総面積136haにおよぶ県内随一の大型工業団地です。同組合は昭和49年に設立され、宇宙船や飛行機に関わる航空・宇宙産業はじめ、自動車、船舶、電気機器、工作機械などあらゆる分野から多種多様な技術とノウハウを持った企業が集まっています。現在は28の組合員で組織しており、共同施設・用地の維持管理事業と共同受電事業をメイン事業に活動を続けています。

同組合では、工業団地内に新たに進出していただける「ものづくり企業」を広く募集しています。アクセス便利な立地環境に加え、共同受電による割安な電力の利用、国・県・可児市による各種優遇・支援制度の活用など、様々なメリットが享受できます。

組合ホームページ(<http://www.kani-i-p.or.jp/>)では「可児工業団地の8つの特徴」などがご覧いただけます。企業進出については、組合事務局(0574-62-6251)までお問い合わせください。



「ものづくり企業」募集特集ページ



# 景況レポート

平成26年  
12月末調査  
(前年同月比)

中小企業団体情報連絡員70名  
(うち70名分の集計)の情報連  
絡票から

## 〔I〕12月の特色

### ◆景況感DI値マイナス31

～前月比マイナス3ポイント～

### ◆原材料価格等の上昇から、引き続き収益環境の悪化を懸念

### ◆寒波、大雪など天候不順から個人消費に伸び悩み

## 〔II〕12月の概況

当月の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、好転4、悪化35で、DI値はマイナス31となり、前月のDI値マイナス28に対し、3ポイントの悪化となった。

さらに業種別の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、製造業のDI値はマイナス28となり、前月比で6ポイントの悪化、非製造業のDI値はマイナス36となり、前月比で±0の横ばいとなった。

なお、回答のあった70業種のうち、前年同月比で景況感が「好転」と回答した業種は、菓子、刃物等金属製品(輸出)、高山旅館の3業種(前月比-2業種)。

また、「悪化」と回答した業種は25業種(前月比±0業種)となり、木材・木製品、紙・紙加工品、小売業、商店街の区分で多かった。

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値はマイナス12で前月比15ポイントの改善、販売価格DI値はマイナス7で前月比1ポイントの悪化、収益状況DI値はマイナス26で前月比18ポイントの改善、資金繰りDI値は

マイナス15で前月比5ポイントの改善となり、売上高及び収益状況DI値は2桁の改善となった。

コメントを見ると、製造業では、「クリスマスや年末年始の賑わいで忙しく、売上が伸びた。(菓子)」、「当月の売上高は、全般的に出荷が好調で前年を上回った。(プラスチック)」など、売上高の増加を伝えるプラスの報告があった一方で、当月も「電気料金、材料費が上昇し、仕事はあるが利益が出ない。(鋳物)」、「電気代、材料費、部品代等が少しずつ値上がりし、利益は前年と余り変わらない状況である。(金型)」など、円安による原材料価格等の上昇により利益が上らない状況を伝えるコメントが依然寄せられている。

非製造業では、「宿泊者数は、前年同月比110.0%と好調。毎年この時期は、忘年会やホテルのディナーショーを兼ねて近郊都市からの宿泊者が多い。(長良川畔旅館)」、「雪の影響があり、特に高山地区からの配送依頼が増加した。(軽運送業)」など、プラスの報告があった一方で、「寒波が何回も押し寄せ寒い日が続いた影響か、全く売上が上がらなかった。(メガネ販売)」、「年末の忘年会の時期には寒波が押し寄せ、飲食関係も不発に終わり、散々な歳末となった。(大垣市商店街)」など、小売業や商店街の業種からは、消費増税後からの消費の低迷に加え、当月は寒波や雪の影響による売上高の減少を伝えるコメントが見られた。

その他、砂利・碎石生産など資材も含めた建設関連の業種では、ダンプ(トラック)不足や、技術者をはじめとする人材の不足と確保難を伝える報告があった。

## <主な調査項目での動向>

**売上高の動向**は、前年同月比で増加28、減少40でDI値はマイナス12となり、前月のマイナス27に対し、15ポイントの改善となった。

売上高が増加した業種は20業種(前月比+9業種)あり、食肉(国産)、菓子、米菓、メンズアパレル、縫製(既製服)、プラスチック、鋳物、刃物等金属製品(輸出)、輸送用機器、機械・工具販売、共同店舗(飛騨)、生花販売、長良川畔旅館、高山旅館、土木(岐阜地区)、電気工事、室内装飾、木造建築、貨物運送(県域)、軽運送である。

売上が減少した業種は28業種(前月比-2業種)あり、特に木材・木製品、紙・紙加工品、窯業・土石、小売業、商店街、サービス業の区分が多い。

**販売価格の動向**は、前年同月比で上昇15、低下22でDI値はマイナス7となり、前月のマイナス6に対し、1ポイントの悪化となった。

販売価格が上昇した業種は11業種(前月比+1業種)あり、牛乳、食肉(国産)、機械すき和紙、プラスチック、碎石生産、鋳物、県金属工業団地、陶磁器産地卸、水産物商業、生花販売、飲食業である。

販売価格が低下した業種は16業種(前月比+2業

種)あり、特に小売業、商店街の区分が多い。

**収益状況の動向**は、前年同月比で好転11、悪化37でDI値はマイナス26となり、前月のマイナス44に対し、18ポイントの改善となった。

収益状況が好転した業種は8業種(前月比+5業種)あり、菓子、メンズアパレル、縫製(既製服)、紙加工品、可児工業団地、生花販売、高山旅館、軽運送である。

収益状況が悪化した業種は26業種(前月比-8業種)あり、木材・木製品、窯業・土石、小売業、商店街の区分が多い。

**資金繰りの動向**は、前年同月比で好転7、悪化22でDI値はマイナス15となり、前月のマイナス20に対し、5ポイントの改善となった。

資金繰りが好転した業種は5業種(前月比+3業種)あり、可児工業団地、輸送用機器、機械・工具販売、生花販売、電気工事である。

資金繰りが悪化した業種は16業種(前月比±0業種)あり、紙・紙加工品、商店街の区分が多い。



# 県内中小企業

(12月末調査)

## 主要業種の景気動向

製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調 査 項 目	売 上 高	販 売 価 格	収 益 状 況	資 金 繰 り	雇 用 人 員	景 況 感
食 料 品	牛 乳		▲	○	△	△	△	△
	食 肉 ( 国 産 )		○	○	△	△	△	△
	菓 子		○	△	○	△	△	○
	米 菓		○	△	△	△	○	△
	製 麵		△	△	△	△	△	△
織 維 ・ 同 製 品	撚 糸		△	△	△	△	△	△
	ニ ッ ト 工 業		△	▲	△	△	△	△
	毛 織 物		△	△	△	△	△	△
	合 成 織 維 織 物		△	△	△	△	△	△
	メ ン ス ア パ レ ル		○	△	○	△	△	▲
木 材 ・ 木 製 品	製 材		▲	△	▲	△	△	▲
	銘 木		▲	△	▲	△	△	△
紙 紙 加 工 品	機 械 す き 和 紙		▲	○	△	▲	△	▲
	特 殊 紙		▲	△	▲	▲	△	▲
印 刷	紙 加 工 品		△	△	○	△	△	△
	印 刷		▲	△	▲	▲	△	▲
化 学 工 業	プ ラ ス チ ッ ク		○	○	△	△	△	△
	陶 磁 器 ( 工 業 )		△	△	△	△	△	▲
窯 業 ・ 土 石	タ イ ル		▲	△	▲	△	△	▲
	窯 業 原 料		▲	△	▲	△	△	△
	石 灰		▲	△	▲	△	△	▲
	生 コ ン ク リ ー ト		▲	△	△	△	△	△
	砂 利 生 産		△	△	▲	△	△	△
鉄 鋼 ・ 金 属	碎 石 生 産		△	○	△	△	△	△
	鑄 物		○	○	▲	△	○	▲
	刃 物 等 金 属 製 品 ( 輸 出 )		○	△	△	△	△	○
	刃 物 等 金 属 製 品 ( 内 需 )		△	△	△	△	△	△
一 般 機 械	メ ッ キ		△	△	△	△	△	△
	県 金 属 工 業 団 地		△	○	△	△	△	△
輸 送 用 機 器	可 児 工 業 団 地		△	▲	○	○	▲	△
	金 型		△	△	△	△	△	△
輸 送 用 機 器		○	△	△	○	△	△	

非 製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調 査 項 目	売 上 高	販 売 価 格	収 益 状 況	資 金 繰 り	雇 用 人 員	景 況 感
卸 売 業	電 設 資 材 卸		▲	△	△	△	△	△
	陶 磁 器 産 地 卸		△	○	△	△	△	△
小 売 業	機 械 ・ 工 具 販 売		○	▲	△	○	▲	△
	青 果 販 売		▲	▲	▲	△	▲	▲
	水 産 物 商 業		▲	○	▲	△	△	▲
	家 電 機 器 販 売		▲	△	▲	▲	△	▲
	メ ガ ネ 販 売		▲	▲	▲	▲	△	▲
	中 古 自 動 車 販 売		▲	▲	▲	▲	▲	▲
	石 油 製 品 販 売		△	▲	△	△	△	△
商 店 街	共 同 店 舗 ( 飛 騨 )		○	▲	△	△	△	△
	生 花 販 売		○	○	○	○	▲	△
サ ー ビ ス 業	岐 阜 市 商 店 街		▲	▲	▲	▲	▲	▲
	大 垣 市 商 店 街		▲	▲	▲	△	△	▲
	高 山 市 商 店 街		▲	△	▲	▲	△	▲
建 設 業	自 動 車 車 体 整 備		▲	△	▲	▲	△	▲
	長 良 川 畔 旅 館		○	△	△	△	△	△
	下 呂 温 泉 旅 館		▲	△	▲	▲	△	▲
	高 山 旅 館		○	△	○	△	△	○
	ク リ ー ニ ン グ		▲	△	△	△	△	△
	廣 告 美 術		▲	▲	▲	▲	△	▲
	飲 食 業		△	○	△	△	△	△
運 輸 業	旅 行 業		▲	▲	▲	▲	△	▲
	理 容 ・ 美 容 業		△	△	△	△	△	△
	土 木 ( 岐 阜 地 区 )		○	▲	▲	△	△	△
	土 木 ( 飛 騨 地 区 )		△	△	△	△	△	△
	建 築 設 計		▲	▲	▲	▲	▲	▲
運 輸 業	鉄 構 造 物		△	△	△	△	△	△
	電 気 工 事		○	▲	△	○	△	△
	管 設 備 工 事		△	△	△	△	△	△
	建 築 板 金		△	△	△	△	△	△
	室 内 装 飾		○	△	△	△	△	△
	木 造 建 築		○	△	▲	▲	▲	△
貨 物 運 送 ( 県 域 )		○	△	△	△	△	△	
軽 運 送		○	△	○	△	△	△	

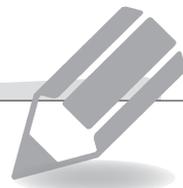
凡 例

○: [増加]、[上昇]、[好転]

△: [不変]

▲: [減少]、[下降]、[悪化]

# 職員レポート



中央会職員が日々の仕事や生活の中で感じていることなどを綴る「職員レポート」。第5回は中央会事務局の“イクメンパパ”河田係長に筆を執っていただきました。



## イクメンパパの「ワーク・ライフ・バランス」

情報課 係長 河田 友宏

いつもお世話になっております。情報課の河田です。

平成18年に入職して早8年になります。日頃は組合訪問などを通じて役員の皆様や組合事務局の方々の組合に対する思いや個々の企業運営に関するお話をお伺いでき、貴重な経験をさせていただいております。

中央会に入職してからは労働に関する仕事に長く従事しており、最近では中小企業と学生との顔の見える関係づくりから、新卒者等の採用・定着までを支援する事業に携わりました。

学生の就職状況は、長く続いた就職難の時代がこの1、2年で企業の業績が回復し、大手を中心とした採用意欲の高まりから「売り手市場」へと一気に状況が変わりました。知名度で劣る県内中小企業は、大手の採用拡大のあおりを受け、応募者減や内定辞退で人材確保が難航していて、例年にない採用活動の長期化が強いられる状況下になりました。

このような状況下で、欲しい情報を企業から「直接、積極的に収集」している学生は就職活動に満足しており、一方企業側も学生に対して「直接、積極的に提供」を行っている企業は採用が成功している傾向がありました。

今回、多くの企業を知る機会をいただいたのですが、県内企業は業界トップのシェアを誇りながら、会社名があまり知られていない企業が多いことに改めて気づかされ、県民性もあるのか、もっと積極的にPRすれば良い結果が生まれると思います。

ここで、少し自己紹介させていただきます。学生時代は、運動部に所属しており、多少は体育会系気質もあります。口下手な上あがり症で社交性があまりなく、皆さんにご迷惑をお掛けしています。うまく言葉が伝わらない事もしばしばありますが、色んな人との出会いや皆さんに育てて頂いたおかげで、多少は克服されたのではないかと勝手に思い込んでいます。

こんな私ですが、2児（一姫二太郎）の父親になっており、自称イクメンをうたっています。入職2年目に二人目が誕生しましたが、その時に無理を聞いてもらい4日間の連続休暇をいただき、長女の面倒を見たことからスイッチが入り、積極的に子育てを楽しみながら行っています。子育てが趣味になりつつあり、休日は子供と一緒に公園で鉄棒や鬼ごっこ、縄跳びなどをして遊んでいます。最近では子供が自分に付き合ってくれている気がします。

さて、最近組合を訪問させていただいた時に組合の存在意義が問われているとよく聞きます。かつて、組合設立の際は明確な目的に向かって活発な活動が行われていたものの、現在は様々な事情から活動が低迷している組合が多くなってきていると感じています。

当初の目的がすでに達成されてしまったケースや環境の変化とともに事業内容が組合員にとって魅力的でなくなってしまったケースなど、組合事業そのものによる理由からこのような状況に至っているケースがあるようです。また、組合によって事情が異なると思いますが、情報共有が出来ていないことや新たな課題に対応できる人材がないなど、組合のリーダーシップにかかわる問題点は共通しているようです。さらに、経営者の集まりでもある組合の理事会では、経営トップである理事長が強いリーダーシップを発揮しづらい環境もあるようです。

昨年11月に本会で開催した「組合事業活用強化フォーラム」の講師、明治大学名誉教授の百瀬恵夫先生は「組合こそ日本再生の原動力であり、中小企業が強くなるには、受け皿としての組合が強くならなくてはならない」とお話されました。組合を組織するということは、中小企業が力を結集する場を創り、互いに助け合っていくことで困難を乗り越えていく、重要な経営戦略の一つであると言えます。

組合運営のお手伝いはまだまだ至らない部分もありますが、組合の応援団として事業経営の関わる知識や経験を積みながらですが、係らせていただければと思っています。「たくさんの人達に支えられ、助けてもらい今の自分がある」と感謝の言葉とともに1歩ずつ前に進んで行こうと思います。これからも、皆様にお声掛けいただけますよう努力してまいりますので、何卒よろしくお願いたします。



イクメンぶりを発揮する河田係長

## 最低賃金改正のお知らせ 厚生労働省・岐阜労働局

最低賃金が下記のように改正されました。  
(太文字が改正部分)

最低賃金の名称	最低賃金の額	効力発生の日
岐阜県最低賃金	<b>時間額 738円</b>	<b>平成26年10月1日</b>
特定(産業別)最低賃金		
電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具 情報通信機械器具製造業	<b>時間額 804円</b>	<b>平成26年12月21日</b>
自動車・同附属品製造業	<b>時間額 842円</b>	
航空機・同附属品製造業	<b>時間額 890円</b>	

陶磁器・同関連製品、耐火物製造業最低賃金は平成26年9月30日をもって廃止され、岐阜県最低賃金が適用されます。  
詳しくは、岐阜労働局賃金室(☎:058-245-8104)又はお近くの労働基準監督署までお尋ねください。

### 「郡上たかす雪まつり」が郡上市高鷲町で開催されます!

郡上市の冬の風物詩となった「第14回郡上たかす雪まつり」が、2月14、15日に牧歌の里「温泉牧華」前の駐車場を舞台に開催されます。

毎回150名を超える参加者で賑わう「雪像コンテスト」と、凍てつく高原の夜空を音と光で彩るナイトイベント「レーザーショー」を二本柱に、「雪上ドッジボール」といった参加型のイベントなど、多数の催しが予定されています。

詳しくは、高鷲観光協会HP  
(<http://kankou.takasu.or.jp/>)をご覧ください。



### 平成26年度経済産業省関連補正予算案の概要について

平成27年1月9日に平成26年度補正予算案が閣議決定され、経済産業省関連予算の概要が公表されましたのでお知らせします。

経済産業省関連総額(含財務省計上分)は、6,605億円、昨年度よりも1,100億円弱の予算増となっており、うち、地域・中小企業対策等には3,090億円が計上されています。

詳しくは、経済産業省HP  
(<http://www.meti.go.jp/main/yosan2014/hosei/index.html>)をご覧ください。

### 謹賀新年



本年もよろしく  
お願い申し上げます。  
岐阜県中小企業団体中央会  
役員一同

末筆となりましたが、本誌「年賀広告」に多数のご協賛をいただき、誠にありがとうございました。

昨年は、本会の事業運営に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

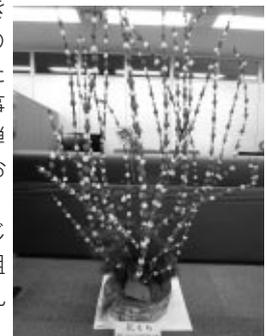
今年、本会は創立60周年を迎える節目の1年となります。今年も“組合から生の声を聞く”ために会員組合の皆様方を訪問させていただき、ニーズに応じた支援を実施していく所存です。

また、皆様に本誌を活用いただくため、掲載記事の見直しを行っておりますので、ご意見やご提案をお寄せいただくとともに、組合員の皆様への情報提供などにご活用いただきますようお願い申し上げます。

### 今年も「花もち」をいただきました

高山市公設市場買受人協同組合(林利夫理事長)より、飛騨の正月を彩る「花もち」を寄贈していただきました。来会者の皆様にもご覧いただけるよう本会事務所内並びに飛騨支所に展示しております。

林理事長はじめ、組合役員、組合員の皆様にお礼申し上げます。



## 中央会日誌

### <11月21日~30日>

- 21日 (公財)産業雇用安定センター 経済団体等情報交換会議(ワークプラザ岐阜)
- 25日 組合法施行65周年・団体法施行55周年記念式典(ANAインターコンチネンタルホテル東京)
- 26日 中央会会費賦課基準検討委員会(ふれあい福寿会館)
- 27日 第35回岐阜県職業能力開発促進大会(大垣市情報工房)

### <12月1日~27日>

- 1日 第2回岐阜県成長・雇用戦略意見交換会(県庁)
- 3日 中央会理事会・役員交流会(岐阜都ホテル)
- 11~12日 東海北陸ブロック中央会会長会議(ANAクラウンプラザホテル金沢)

### <1月5日~20日>

- 15日 中小企業大学校瀬戸校関係機関連絡会議(名古屋センタービル)

# 地域の未来を 中小企業とともに。



\\ 話せるパートナー //

## 商工中金

個人のお客さま向けの定期預金です。

高めの金利設定  
(当金庫内比較)

固定金利の半年複利  
(元本保証)

1年、2年、3年から  
期間が選べる

\\ 安心、確実、お得に増やす //

定期預金 **マイハーベスト**

商工中金は、国とともに、中小企業をサポートする公的金融機関です。  
お客さまとともに、地域活性化に全国で取り組んでいます。

岐阜支店 〒500-8828 岐阜市若宮町 9-16  
TEL:058-263-9191



人を思う。未来を思う。

商工中金

この広報紙は岐阜県からの助成を受けています。